公認候補の完勝期す
炭労大會選斗推進を決定

炭労第十五回定期大会は〝憲法改悪を阻止する議会勢力三分の一を獲得する〟絶好の機会である参議院選挙の決戦を目前に控え、炭労公認候補の完勝を期し、(1)中央執行部は残留業務執行委員を除き全員専オルグとして派遣。(2)悪法反対闘争強化月間（五月一日～三十一日）を通じ、悪法反対、選挙闘争の徹底的な教宣活動を行い、闘争意欲の高揚と候補者の浸透を図る。(3)組合員の組織外より一人一票獲得運動、など決定、今大会前の炭労公認候補者や選挙闘争資金決定の経過は次の通りである。

わが炭労は昨年八月二十五日から開かれた第八回中央委員会（八中委）で、今年行われる参議院の選挙闘争に関する決定を行い、十月三十日から開かれた第十四回臨時大会に「参議院選挙闘争に関する件」を提案して、「選挙綱領」は原案どおり満場一致で確認されたが、炭労公認候補者について八中委では全国区から阿部竹松（前執行委員長）、地方区から山本経勝（現参議、前九炭労委員長）の両氏を決めていたが、さらに地方区に大河原一次（磐炭労委員長）、大矢正（道炭労委員長）の両氏を追加して、合計四氏を十四大会で確認した。この炭労公認候補者について地評で公認されなかつた場合には、炭労中央選対委で最終的に決定することになつていたが、その後各候補者とも地評および社会党で正式に公認候補者として決定された。

また選挙資金については、提案七〇円を五五円として十四大会で決め、その後これが確実に中央本部に積立てられている。

選挙綱領について

八中委ならびに十四大会で決定された炭労の選挙綱領は次の通りである。

一、MSAによる隷属化に反対し外国軍隊の撤退と民族独立の実現。
一、平和憲法を守り、軍事予算に反対し、弾圧法規を粉砕する。
一、ソ連および中共との国交回復と全面講和締結。
一、世界平和の確立に努力し、隷属と貧乏から労働者大衆を守る
一、社会保障制度の推進と炭鉱社会化の実現。
一、平和経済の推進および中小炭鉱の擁護。
一、労働者生活権の確保および最低賃金制度の確立。
一、闘う民主的労働戦線の強化と民主戦線の統一。　以上

参議院の議席総数二五〇のうち現在憲法改悪反対予想議員数は七七ないし七八にすぎない。従つて憲法改悪を阻止するためには、参議院の議席の三分の一以上は八二だから緑風会や無所属クラブ内の反対派を計算に入れてもすでに四ないし五の不足を示しているので、われわれの候補を是が否でも勝たせなければならない。

八幡製鉄 労組と座談會
主婦会結成など（新港社宅）で

去る五月十二日八幡製鉄労組から執行委員を含めて九名が三池を訪れて、十三日新港社宅の集会所で組合員、主婦を交えて座談会を行つた。

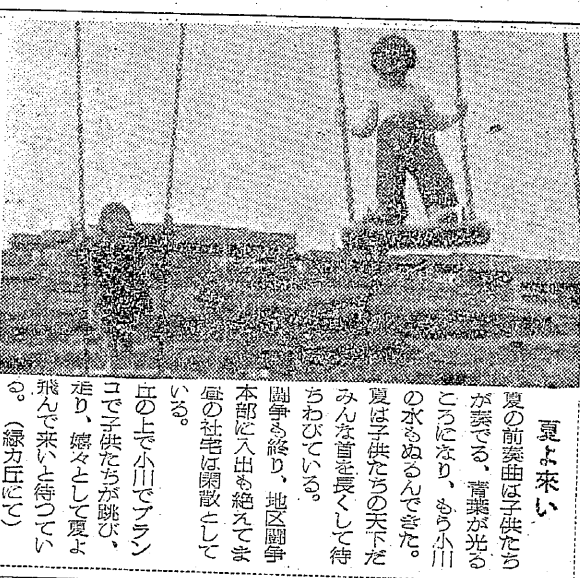
地域分会、主婦会の組織は結成以来闘争の大きなバックボーンとして闘いを有利に展開していることは、各労組とも非常な関心をよせている有様で、すでにぼつぼつと結成がみられている。

この日の座談会も午前十時から午後二時半ごろまで行われたが、炭婦協結成時の苦労、三池の組合の実態や主婦会、地域の組織についていろいろと質問が浴びせられた。

これに出席した組合員や主婦の人たちから結成時の苦労を想起して当時の苦しかつた経験をもとに職制からの猛烈な圧迫のもようや、加入すると主人のクビの問題になるなどとオドかされたりしたことがいろいろと話されて、製鉄の人たちに大きな感銘を与え、結成の手がかりとなる多くの資料になつたと思われた。

また闘争以外の日常活動などについても話が交され、婦人の教養活動としての料理や育児面までの巾広い活動のもようがしらされたりした。なおこちらからも八幡の労組の実態などが質問され意義深い交流の場となつた。

あの時は苦しかつたと交流座談会



夏よ来い

夏の前奏曲は子供たちが奏でる、青葉が光るころになり、もう小川の水もぬるんできた。夏は子供たちの天下だ みんな首を長くして待ちわびている。

闘争も終り、地区闘争本部に入出も絶えてま昼の社宅は閑散としている。

丘の上で小川でブランコで子供たちが跳び、走り、嬉々として夏よ飛んで来いと待つている。（緑ケ丘にて）

隠れた善行わかる
河野（四山）さん子供を救助

五月二十七日の昼一寸前の十一時半頃四山大島社宅二十七棟の河野進さん（採炭）はこの日久し振りで天気がよかつたので、畠仕事をしていたところが、何の気なしに水槽をみたところ波紋が立つているし、附近には人影もないので不思議に思つて近寄つたところ水面に頭の毛だけが見えているので驚いて着物をきたまゝ飛びこんで助けあげた。

ところがこれが子供で、手に竹をしつかり握つたまゝ水も相当呑んでいるようで、意識も不明であり死亡するのではないかと危ぶむほどだつたが、河野さんの救助が早かつたのと直ちに手当が行われた末一命をとりとめることが出来た。

調査の結果、この子供さんは四山（福岡県）社宅八二棟角三郎さん（掘進）の四男としみつちやん（7才）ということが判つた。

救助の本人河野さんは名前も告げずに立去つていたので、誰が救けたのかも判らなかつたが、十九日このことがはつきりわかり、角さんはじめ地域の人たちの感謝の的になつている。

なお地域分会ではこの尊い働きに対して表彰することになつた。

この水槽は大人が入つても首までつかるほどの深さだそうだが、いよいよこれから夏にかけて子供の水遊びも多くなる季節ですので、子供の水遊びにはくれぐれも注意して危険を防ぎましよう。

多くなつた同僚の死
入院の友へ見舞金等
三川友愛会で新たな活動

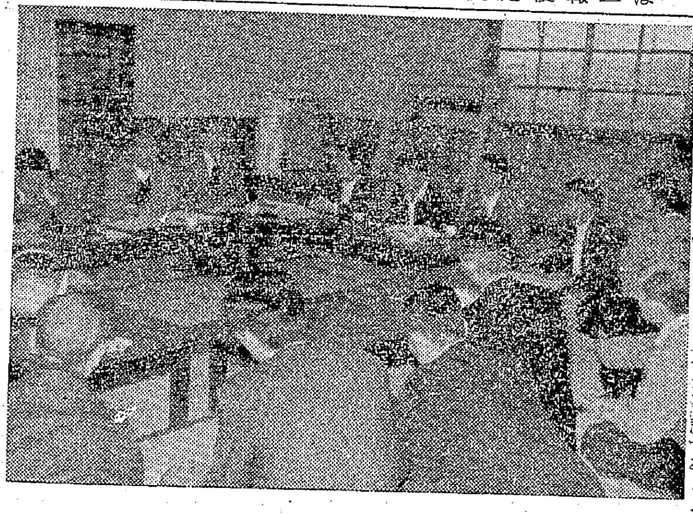
三川では今年に入つてから早くも七名の人がけい肺で尊い犠牲になつて死亡されている。

こういうことから三川友愛会では十三日の日曜日に組合事務所の二階で会合を行い、一年間の決算報告などに兼ねて患者としての今後の考えかたなどを真剣に話合つたけい肺患者でつくられている友愛会は四山では早くから組織されていろんな活動を行つていたが、三川のけい肺の人たちの間でもこれに刺戟されてつくつたのが丁度一年ほど前だつた。

当時はけい肺特別保護法が成立して、また三鉱連と会社とのけい肺協定書も出来たし、これの説明などの必要もあり、さらに患者同志の慰め合いなどを進めようということで四十四名で発足した。

会合はその都度行つていたが、今年は前記のような状態で患者としても重大な問題であり、この問題についてもいろいろ討論したが、さしあたり毎月会費として一人当り二十円積立てを行つている中から、現在八代の労災病院や天領、山の上病院に入院している同僚たちに一人に二百円の見舞を贈ることになつたまた健康な人たちにはけい肺病というのはこんな病気ですと、自分たちが体験した苦しい状態を知らせる話合いを持つたり今度の検診では、けい肺一度といわれる人も相当出ている有様だから、こんな人には適当な指導を行つて行こうと自分たちの苦しい中から、この苦しみを他の人に少しでも少くしようと温かい人間性から出た活動を今後は全力をかけて行うことになつた。

このほか八代の病院に入つている人からこの病院のもようなどを聞きたいという計画も出ており、今後少しでも余命を長らえて暮して行く真剣な話合いであつた。



組合二階で話合う友愛会の人々

草商連緑力丘支部を結成

五月一日のメーデーには、全店サイドカーを連ねて盛大に参加した緑力丘内及附近の草商連の人達はよりより緑ケ丘支部を結成したいと話し合つていたが、五月十三日話がまとまり、多数参加の上結成大会を開いた。

当日は午後七時より、緑ケ丘電人原、戸上電気器具店に参集、加盟店四十五店の中、四〇名が出席して規約を審議採択、支部長に田中衣料店他役員を決定した。和気あいあいたる内に、組合、主婦会と協力し加盟店の発展を行うこととした。来賓としては荒尾市商工会議所野崎副会頭、主婦会より前川副会長、五島支部長、市議小森隆一氏が出席した。

尚田中支部長は挨拶の中で加盟店は緑力丘地域の組合員及びその家族が百%私達の御客様であるので、この地域分会、主婦会とよく話し合い協力して行きたい。と述べていた。

＝詩＝

組織防衛總決起大会

加藤說夫

拍手で迎える仲間の胸
に
づつし　づつし　づつし
地響をたてて
まつすぐに踏みこんで
くる　足音
いや　それは　足音では
ない
新しい歴史のなかに踏
みこんでゆく
三六、〇〇〇の魂のと
どろきだ
さんさんたる春日に
かわいた路
土ほこりが
果てしなく　つづく列
の足許から湧き
舞いあがり　白装にま
つわりついて
裾を褐色に染め
わつしょい　わつしょ
い
足をひきずり　じぐざ
ぐにうねる
デモの列は
いちように
ひからびた口の中で
砂を噛む
眩くあつさの廣場
灼きつく陽を
頬にうけとめ
腕にうけとめ
動じない　三六、〇〇
〇の坐像
何百本あろうか
いちように赤い　はた
めかない旗
風のない　あつい
はりつめた
おそろしく大きなもの
の上に
マイクはよく透る
「組織分断を企図する
会社の野望に対して
私達は断固として闘う
ものである」
しんとした廣場の静け
さが
一瞬　こわれて
沸きあがる共感の拍手
巨大な　統禦された動
と静
十年　練りあげられた
規律と団結のみごとさ

個人が
組織を形成する胞子で
ある自覚を
幸　不幸が　組織とと
もにある自覚を
その組織が壊れること
のない確信を
大会の厳しさの中に首
肯した一瞬

胸せまり
湧きあがつてくる　涙
が……。

ヤマの足跡 (2)
人間より馬が大切
暗黒の中で十二時間労働

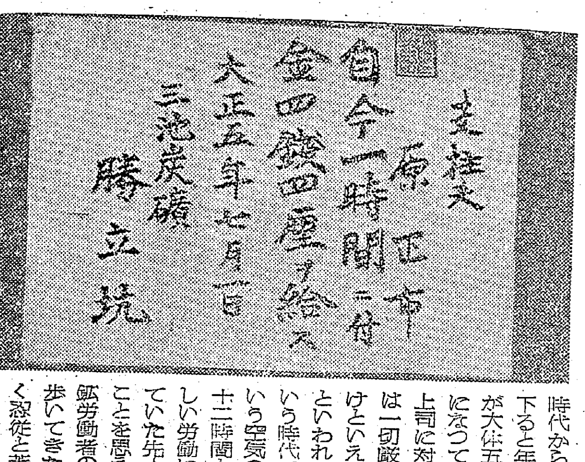
大正五年二十二才のとき勝立坑に下つたのが始まりで、昭和二十年の十月に万田坑を退職するまでの三十年ちかい長い年月を炭鉱生活一本槍でとおし抜いてきた万田社宅宮坂町の原正市さんを今回は訪れてみた。

自宅を訪れると少し無精ひげものびかけた顔に、和服にくつろいだ原さんから受ける感じはヤマで鍛えた男らしいガッチリとして、素朴な親しさが湧いてくる。

明治二十五年の生まれだそうだから今年六十五才、いまの満年令で言えば正しくは六十四才ということである。原さんが当時下られたところはこの勝立坑のほかに宮原、七浦、大浦、万田などで盛んに石炭の採掘が行われていて、とくに宮原坑には三池の懲治監の囚徒たちが坑内に下つていたのは有名な話である大正九年に万田坑に入りこゝが退職までの職場となつた。大正の初期といえばまだ坑内も機械化とは甚だ縁遠い存在で、全く人の体一つの激しい労働が続けられたのだそうである。以下当時を想起して貰つていろいろな話を伺つてみよう。

何といつても今昔の感にたえないのが、いまの機械の変りに用いられたのが坑内馬だそうで、切羽も馬が主力で運搬にあたり普通のゆるやかな坂ぐらいだつたら三函箱、急な坂だつたらカラで一函箱を運んでいたそうだ万田坑にはそのころ馬が八十頭おり、これが三交替をやつていて、これに対して人間は十二時間労働の二交替制、人間は葉書で呼べば直ぐ使われるが、馬は百円近い金を使わぬと用いられぬとあつて、人間以上に大事にされていたという笑えぬ話もある。しかしこの馬も一度坑内に入つたが最後怪我か病気をせぬかぎりは、外へは出されなかつたそうだ。原さんの仕事は支柱夫で枠張りの先山さん、何といつても当時苦労していたのは材料（坑木）寄せであの重い坑木を現場に担いでいくのは最大の苦労だつたらしく苦しい思い出になつている。

大正五年七月一日付の辞令「支柱夫、原正市　自今一時間ニ付金四銭四厘ヲ給ス」という四十年前の辞令をみせて貰つたが、いまではこんな資料は炭鉱史を飾る重要な文化財だろう。この時代から七、八年下ると年間の昇給が大体五銭ぐらいになつている。



支柱夫
原正市
自今一時間ニ付
金四銭四厘ヲ給ス
大正五年七月一日
三池炭礦
勝立坑

上司に対する文句は一切厳禁、右向けといえば右、左といわれると左という時代で、こういう空気の中での十二時間という激しい労働に従事していた先人たちのことを思えば、炭鉱労働者の今まで歩いてきた道は全く忍従と苦難に彩られてきたのである。

こういうことを判然と示しているのにつぎのようなことがあつたそうである。

当時変災によつて坑内で殉職した場合は、十年以上の在籍があれば大体八百五十円程度で、これが十年にも満たないときは四百円から四百五十円ぐらいの見舞金が出されていた。しかもこれは規程によれば千円が出るようになつていたが、前記の金額しか出されていなかつたそうだ甚だしいのは脳溢血で坑内で死亡したという認定や、坑外に搬出したとき死亡したという認定が出されていて片付けられた件数も大分あつたらしい。特に注目された事件として当時起つたのは勤続七、八年位の人だが、この人が殉職したとき八百五十円かが出されたそうだが、家族がこれに承知せず裁判にかけたところ、規定の千円が支払われるように判決があり支払われたが、この結果、この人の親類縁者はみんなクビになり、孫に至るまでリストにのつて絶対三井の会社には就職出来なくなつたという言語同断な措置になつたそうである。これをみても如何に彼等が悪辣な方法で財を築くのに血眼になつていたかをうかがい知ることができる。

（写真は原さんと大正五年当時の辞令）

山の様子が知りたい
呉市の先生から手紙

五月十一日の消印のある一枚の葉書が十三日ひよつこり組合本部に舞込みました。

この手紙は呉市仁方町仁方中学校の社会科の一先生からでした。つぎにこの手紙の内容を掲載しましよう……。

五月のよい季節になりました。組合の皆様、御家族の皆様お元気でお働きのことゝ存じます。

私は中学校の一教師で社会科を担当しているものです。実は平素から炭労の皆様の英雄的な御活躍に敬意を持ち、ともに苦しい生活を切り開いてもつと楽な世の中につくりかえなければならないと考えていましたが、ヤマの様子や生活を教材にとり入れて生徒達に日本の現実を具体的に知らせ、私達はこれをどう考え、これにどう対処しなければならぬかを自覚させたいと思うのです。ヤマの生活、とくに生徒達の友人であるお子さん達の生活、お家の生活の実状、それと炭鉱資本家の実態といつたようなことのよく判る資料をお送り下さいませんか。二百五十名の中学生とともにお待ちしています

私達の町はヤスリを作つている町工場の多い呉市の東のはずれの町ですが、もしうまく行けば私達の町の中学生とヤマの子供さん達とが文通をして互に新しい日本のつくりかえについて話し合うようになれば大したものだと思いますどうぞよろしくお願いします。

……という葉書です。組合では早速この先生と中学生のために資料を送るようにいまいろいろ集めていますので、組合員の皆様や児童の綴方なども送つてやりましよう皆さんの作品を組合本部まで届けて下さい。

炭都の将棋名人
榮冠は四山塚本さんへ

炭都祭行事の一つとして五月一日市職員会館で大牟田地方将棋連盟（各事業所単位に加盟している）では炭都祭の協賛で市民将棋大会ならびに大牟田地方名人位決定戦を行つた。

この名人位決定戦に晴れの名人位をかちとり名乗りをあげたのが四山支部の塚本務さん（緑ガ丘敷島町、機元工）である。

ことしのこの大会にはとくに細谷市長から見ごとな優勝カップが寄贈されており、試合前から晴れの名人をめぐつてのうわさが取沙汰されていたが、当日参加したものの中で名人戦に腕を競つたものは二十六人、さすがの名人戦に出場するだけに、各人腕に覚えのある連中ばかりで試合は正午から午後九時過ぎまで盤上に熱戦が展開された。

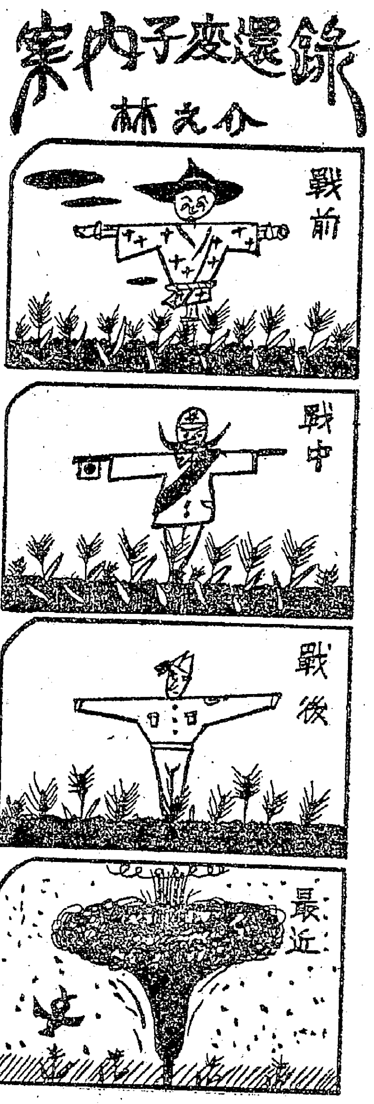
この日の塚本さんはコンデションは最初から非常によく、試合はトーナメント方式で行われたが対局者を矢つぎ早に打負かし、最後の優勝戦には四十分ちかくで試合を運ぶ実力のほどを示している。

この種名人戦などは待つたなしでつぎつぎに試合が進められて行くので、油断すれば自分よりも下級者にも打ち負かされるので余程の実力がないと優勝は望めないそうである。

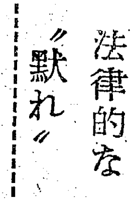
塚本さんの指しは普だんから堅実無比な指し手として評判されているほどで、各方面の将棋会で優秀な成績をおさめられている。この日も予想にたがわずコンデションも最初から終局まで平均しておりそのコンスタント（不変）な実力を高く評価された。

塚本さんを訪れると、明後日（十三日）肥後の名人戦にも荒尾代表として参加しなければならないと語つておられ「将棋をやつていれば不健全な娯楽にも関心がなくなり、仕事の苦しさも忘れる。この種の文化面はいま会社の一手販売の形だが、組合ももつとこういう方面にも力を入れて貰えば、こういうことを通じての組合員間の融和も大きなものだろうと思います」と建設的な意見も吐かれていた。

カップを手に喜びの塚本さん



法律的な〝默れ〟



法律の名でなら何をやつても良いのか、かつて戦争中佐藤賢了という一大佐が帝国議会で「黙れ!!」と大かつ一声議員諸公をしかり飛ばし、いくら軍部専横の時代でも何がしかの反抗を呼んだことがある。

ところが戦後になると、マツク、ダレス、吉田、自民党と民主々義的黙れが横行している。例を挙げるときりはないが、その最たるものが今議会でもめている小選挙区法案である。多数党の名で法律としさえすれば後は是が非でも正しいとして押し通そうという魂胆である。

汚職、疑獄の非難に対して、また二大政党育成のためとか、その時々必要に応じて美辞麗句で理由はつけているが、本当の目的は死の商人（独占資本）の野望、アメリカのための戦争準備、平和憲法しめ殺しである。

赤紙一枚で安上りの兵隊を無尽蔵につくり出そうというのである。いわゆる支那事変から大東亜戦争と十年に近い破壊的な大戦争に引ずり込まれた日本人の間では、いくら戦後民主的になつたといつても封建的盲従性は強い。お上のやることは理屈抜きに従う。強いものにはまかれろの気風がある。それでお偉方は何度でも欺しの手が利きそうな気がするしまた欺しはじめたのである。

選挙費用が少くて済むとか二大政党育成など実はこの理由も国民を欺す理由である小選挙区は、かつて買収選挙といわれた悪名を持つている。二大政党などいうが区割案で自分の住んでいる選挙区をながめてみたら直ぐわかる。明らかに自民党独裁の結果としかならない。

今日の議会制度では選挙はただ一つの国民主権の行使である国民の立場からは国民の意志が一人洩れなく議会に反映するようにするのが一番正しい選挙制度である小選挙区制ではこの点致命的な欠点がある。半数か場合によつては半数以上も出るおそれのある死票の問題である。

多数の国民の意志が闇から闇に葬られることで、これこそ国民に対する法律的「黙れ!!」である。イギリスのようにたくさん植民地を持つている豊かな国ならともかく日本のように自らが外国の基地であり、貧富の差が開きつゝある国ではたくさんの国民の意見を押し潰すことはもう民主々義でなくなつてしまう。

ましてや保守派のように呑ませ、喰わせの選挙ではまさしく金主々義というところではないか。小選挙区制に反対することが議会主義を守り、民主々義を守ることとである。

国民に対するこの「黙れ!!」の悪法は叩き潰さねばならない（三川　盛末勝己）

三日から開始
全國勞組の体育大會

第九回全国労働組合体育大会が例年のように今年も行われますが、大牟田地区予選の種目、日程などが後記のように決定しました。もうすまでもなくこの会の目的は労働者にスポーツを普及して労働者の体位向上と明朗な精神のかん養を図り、労働組合の健全な発展と産業の振興に寄与するということになつていて、主催は労働省でやつています。

なおこの大会は都道府県大会、地区大会とし都道府県大会で優勝したチームが地区大会に進出、ここで優勝したチームが全国大会に出場することになつています。

◎野球　六月四日より毎日午後四時から延命球場
◎卓球　六月十日　午前九時から　三鉱体育館
◎排球　六月三日　午前九時から　延命コート
◎庭球　六月九日　午前九時から　小浜コート

＝映画紹介＝

08・15

この映画の原作はナチの軍隊生活を描いたものである。奇妙な題名だが08/15とは軍隊の俗語ナチ陸軍の自動銃の制式ナンバーで意味は「がんこなやつ」「うすのろ」という。物語は一九三九年ナチ陸軍の訓練部隊の兵営生活を描き前半はフイアパインというピアノ好きの弱そうな要領の悪い二等兵がいじめられる話でかなり風刺的で戯画化されている。後半は前半ほどだらけないが、フイアパインの親友で「要領のいい古参兵」が下士官連の悪事、横暴をつき弱点を握つて営内改悪をやる話で写実味も強くなる。「真空地帯」に通ずるものもあるが、根本の違いはこの作品の明るさである。（二十三日よりセントラル）

夕やけ雲

「二十四のひとみ」「野菊の如き君なりき」で好評を博した木下恵介監督の作品。魚屋の長男に生れた秋本洋一（田中晋二）が家庭の事情から少年の日の夢をあきらめて一介の魚屋になるまでの過程を描いている。貧しい日本の庶民の家庭では多かれ少なかれどこにも共通するテーマであるが、木下監督の腕はたしかで、単純な筋を少しも退屈させないように描き、この主人公の一家を通じて日本の社会の縮図をうきぼりにしている。洋一の母にふんする望月優子、姉登子を演ずる久我美子も共に好演。（廿五日から大天地）

訂正

みいけ四二八号二面下段「ソフトボール」記事中、連合主婦会とあるのは「緑力丘連合地域分会」にまた十三日は二十日に延期しましたのでそれぞれ訂正いたします。

社會保険が募集
勤勞者寫眞コンクール

「第二回勤労者写真コンクール」が社会保険法規研究会と東京社会保険協会の主催で左記要領で実施されることになりました。写真愛好者の皆さんは奮つて応募して下さい。

募集要領

◇題　材　自由（できれば健康を象徴したもの）
◇大きさ　四ツ切
◇枚　数　制限なし
◇資　格　健康保険被保険者
◇募集期間　昭和三十年三月十五日より三十一年六月十五日まで
◇審査員　小西六写真工業KK技術部
◇送付先　東京都千代田区丸の内東京都民生局保険部内　財団法人　東京社会保険協会　または東京都中央区銀座東八ノ四　社会保険法規研究会
◇賞　推薦一枚　賞金一万円　賞状　副賞カップ（小西六写真KK）
特選一枚　賞金五千円　賞状　副賞カップ
一等一枚　賞金三千円　賞状　副賞カップ
二等三枚　賞金二千円　賞状　副賞カップ
三等五枚　賞金千円　賞状　副賞カメラバッグ
入選佳作二十枚　記念品
◇発　表　七月中旬　社会保険新報（七月十五日）健康保険タイムス（七月十日）社会保険週報（七月第一週号）

【応募規定】
(1) 応募作品は未発表のもの。
(2) 作品の裏面に住所、氏名、データ、所属事業所を記入のこと
(3) 応募作品は返却しません。
(4) 作品と版権は主催者に帰属
(5) 賞品は原版引換えに授与
(6) 作品は「さくら製品」を使用